参考資料２

学校の小規模化におけるメリットと課題について

一般に、小規模校には、以下のようなメリットが存在すると言われています。

・一人ひとりの学習の定着状況を的確に把握し、きめ細かな指導が行いやすい
・意見や感想を発表できる機会が多くなる
・様々な活動において、一人ひとりがリーダーを務める機会が多くなる
・施設や備品、教材などが余裕をもって使用できる
・異年齢の学習活動を組みやすい
・地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい
・児童生徒の家庭の状況、地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる

その一方で、学級における児童生徒数が極端に少なくなった場合、学級数が少ないことにより生じる様々な課題のうち、以下の点が特に顕著な課題として現れてきます。

・運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がる
・学級内で男女比の偏りが生じやすい
・体育の球技や音楽の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる
・班活動やグループ分けに制約が生じる
・協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる
・教科等が得意な子供の考えにクラス全体が引っ張られがちとなる
・児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる
・教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる

今後の教育においては、一方向・一斉型の授業だけではなく、子どもたちが自ら課題を発見し、主体的に学び合う活動など、協働的な学習を通じて、意欲や知的好奇心を十分に引き出すことが求められています。

しかしながら、学級の児童生徒数が余りにも少ない場合、班活動やグループ分けのパターンや、協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じることから、こうした新たな時代に求められる教育活動を充実させることが困難になるといった課題もあります。

参考　公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引
（平成 27 年 1 月 27 日　文部科学省）